

2023年2月2日

海外福岡県人会御中

東京福岡県人会  
国際交流委員会

## 2023年2月度会報

明日は節分、鬼を払って新年を迎える、立春の前日の行事ですが、最近では恵方巻を食べる日と認識されているようです。今年の方角は南南東、恵方巻きを食べ、豆を撒いて、鬼を打ち払いましょう。

- (1) 日本のコロナ禍(新型インフルエンザ等感染症)は現在第8波が蔓延していますが、重症化リスクは低くなっています。これを受けて、政府はコロナ感染症をゴールドンウィーク明けの5月8日に現在の2類相当から5類(インフルエンザ並み)に引き下げることを決定しました。5類になると、行動制限・マスク着用も緩和され、感染者や濃厚接触者の自宅待機もなくなり、日本も愈々ウイズコロナの通常生活時代に入ることになりました。

参考 : 主要な感染症の分類

- 1類 ペスト、エボラ
- 2類 コロナ(現在) → 5類に、結核、鳥インフルエンザ、MERS
- 3類 コレラ、チフス
- 4類 マラリア、A型、E型肝炎、黄熱病
- 5類 インフルエンザ

- (2) 異次元の少子化対策

2022年、日本の合計特殊出生率は1.34となり、年間出生者数は80万人を割り込みました(速報)。日本の人口は2010年にピーク(死亡者数が出生数を上回る)を迎え、以降毎年人口減少(減少数は暫時拡大)が続いています。

人口減少は国内需要にマイナスとなり、且つ高齢化により社会保障費の増加、生産性人口の減少等のシリアスな問題を惹起させています。

岸田首相は危機感を募らせ、異次元の少子化対策を講じると施政方針演説で発表しました。しかし、今日の状況は相当前から続いている現象であり、政府は過去何度となく対策を講じてきていますが、何れも功を奏していません。

結婚年齢の高齢化、婚姻数の減少(適齢年齢層の減少、低収入で結婚できない若者の増加)、出生数の減少(人生観の変化と子育て不安等)を反転させることは非常に

難しい課題であります。

また人口減少問題は日本のみでなく、世界の主要国でも同様の問題を抱えています。昨年、中国も人口減少段階に転じました。今年中には人口トップの座をインドに明け渡す見込みとなっています。

主要国の合計特殊出生率（2020年）

日本	1.34	米国	1.64
韓国	0.84	英国	1.56
中国	1.28	フランス	1.83
台湾	1.07	ドイツ	1.53

上記の中で特異な国はフランスです。フランスでは1993年に合計特殊出生率が1.66まで落ちこんだのですが、仏政府は対策を講じ、今日では1.83まで戻っています。日本政府もこの事例を参照し、効果的な対策を講じることを期待するものです。

参考：日本の人口推移

鎌倉幕府（1192年）	757万人
室町幕府（1338年）	818万人
江戸幕府（1603年）	1227万人
明治維新（1868年）	3300万人
終戦時（1945年）	7199万人
ピーク（2010年）	12806万人
現在（2023年）	12477万人（2023年1月1日現在、速報値）

### （3）貿易赤字拡大

2022年の貿易統計（速報）によると貿易収支は、輸入額は118.2兆円、輸出額は98.8兆円で19.9兆円の赤字となり、1979年以降で最大となりました。貿易立国であった日本ですが、輸入は円安、資源高で大幅増、輸出は円安にも拘わらず、企業による生産拠点を海外移転の影響もあり、伸び悩んでいます。この赤字基調は今後も続くとみられています。

### （4）最強寒波到来

沖縄では既に桜（ヒガンサクラ）の満開が発表されましたが、10年に一度の最強寒波（こんな気象用語があるのですね）が日本を襲っています。北海道から北九州までの日本海側では豪雪、強風による被害が続出しています。

地球温暖化が叫ばれていますが、なぜ日本に最強寒波となっているのでしょうか。

これも温暖化の影響と専門家は説明しています。風が吹けば、桶屋が儲ける、落語の世界のようですが、地球温暖化の影響で北極地域の氷河が解けて海に流れ込み、海流の流れが変化しているようです。これが上層の大気の流れに影響を与え、偏西風が蛇行、寒気団がシベリアから日本に、そして米国東部に降りてきているようです。一方で欧州は暖冬となっているようです。

この気候変動の現象を見ても、世界が一つであることが分かります。

それにしても寒い、加齢とともに寒さが身に沁みます。こんな時は、熱燗を飲みながらの鍋が最高ですね。

#### (5) スポーツ・文化面

今や正月の風物詩となった第99回箱根駅伝は駒澤大学が総合優勝を飾り、これで5校目の三冠（出雲駅伝、全日本駅伝、箱根駅伝）達成となりました。

来年は節目の第100回大会、特別大会として関東学連だけでなく、全国で予選会が開催されることになりました。駒沢の連覇か、中央大学・青山学院等の他校の雪辱か、果たして他地域の大学の活躍はあるのか、更にヒートしそうな雰囲気です。

3月に行われるWBC(WORLD BASEBALL CLASSIC)の日本代表選手30名が発表されました。昨年、日本シリーズで優勝したオリックスの山本投手、22歳の若さで3冠王になった村神様ならぬ村上選手等に加え、大リーグで活躍している大谷、ダルビッシュ、鈴木選手も選出されました。3回ぶりの優勝目指して、頑張っているものです。

大相撲初場所は1横綱、1大関と異常な番付となりました（春場所も同様です）。残念ながら横綱・照ノ富士は3場所連続の休場でしたが、大関・貴景勝が優勝し、何とか権威を保った形で終わりました。関脇・若隆景、豊昇龍、霧場山等の大関昇進が待たれますが、さてどうなるか。

将棋界では平成の天才・羽生九段（タイトル獲得99期）が令和の天才・藤井5冠（タイトル獲得既に11期）に挑戦している王将戦が佳境に入っています。

現在、藤井5冠の2勝1敗、藤井5冠のタイトル連覇か、羽生九段が驚愕の通算タイトル100期達成か、何れとなっても興味深い対戦が続きます。

天才の二人が世界の苦悩を一人で背負っているような格好で長時間の長考、平凡人の小生には計り知れないほどの盤面が二人の頭の中で動いているのでしょうか。最近では藤井曲線という言葉が有名になっています。AI評価による優勢値が飛行機の離陸に似た曲線を描く様、天才と呼ばれる所以です。

(6) 水仙

今月の花は水仙（雪の中でも春の訪れを告げるので雪中花とも呼ばれる）です。

地中海沿岸が原産で平安初期に中国から渡来したようです。

英語の学名は「ナルシサス」はギリシア神話の美少年の名前で泉に映った自分の姿を毎日眺めていたら1本の花（水仙）になってしまった。ここから「ナルシスト」という言葉ができました。

関東では伊豆・爪木崎の水仙祭りが有名ですが、ここで撮った写真を添付します（ちょっと写りが悪くて恐縮です）。

以上/文責（江本）